

論壇

機械フル活用生活

私が最初にパソコンを購入したのは、1984年だった。いまから32年前だ。そのパソコンのワープロソフトを使って、最初の本を執筆した。それから何十冊も本を書いているが、すべてパソコンを利用して書いたものだ。私にとっ
て、鉛筆や原稿用紙では、短い原稿は書いても、書籍を書くのはとても無理だ。
最初からパソコンを使うことで、手書きで原稿を書く能力の重要な部分が欠落してしまっただ。私の大学の恩師の原稿を見る

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

機会が何度かあったが、原稿用紙に見事に字を埋めていき、しかもそれに鉛筆で見事な修正を加えている。芸術的な原稿と言ってよいだろう。長年手書きで原稿を書いてきたので、そうした能力が身についたのだと、先生はおっしゃっていた。
パソコンのような機器の利用

AIの技術革新と教育

は、こうした能力を低下させるよ
うだ。車にばかり乗っていると足の筋肉が衰えるように、パソコンばかり使っていると手書きのときに発揮する何らかの能力が劣化するのだろう。
ただ、私はそれが悪いことだとは思っていない。パソコンという

本語で講義をすれば、別のマイクから英語や中国語に翻訳された音声がでてくるのだ。最近のコンピュータの音声認識や翻訳ソフトの美力の向上を見れば、こうした話はまんざら誇張ではない。
昔から学生に冗談で、「英会話を一生命に勉強するより、機械が翻訳しやすい日本語を話す訓練をした方が早い」と言っていたが、それが冗談ではなくなりそうだ。機械を通して、外国の人と自由に話せるようになるし、外国語で書かれた文書も簡単に日本語で読めるようになるかもしれない。
未来の方向性も重要

教育においては、過去の経験の伝承も重要だが、未来の方向性を考えることも重要だ。もし10年で

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。